

藤沢市 令和4年度事務事業評価シート(令和3年度分)

No. 1

事務事業名	藤沢駅周辺地区再整備事業費										担当	部課名	都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当			
予算科目コード	会計	01	款	09	項	04	目	01	細目	007	説明	01	課等の長	飯田 健一	電話	4332

1. 事業概要

事業開始年度	平成 22 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	藤沢駅周辺地区の再活性化及び都市機能の更新・強化に向けて策定した「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に基づく事業計画案に示された個別プロジェクトを推進する。						
事業目的及び必要性	活力とにぎわいのあるまちづくりを目指し、市の中心地にふさわしい都市空間を形成する。藤沢駅周辺地区は、市の都心部であり、湘南の玄関口として、超高齢社会に対応した市全体のコンパクトな都市構造を形成する上で核となる都市拠点であることから、活力とにぎわいのあるまちづくりを目指し、かつ、安心・安全の観点で踏まえ、再活性化に向けた早急な再整備が必要となっている。						
対象	1. 個人	市民				438,968 人	
根拠法令等							

藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)

まちづくりコンセプト		重点施策名	
■ サステナブル藤沢 ■ インクルーシブ藤沢 ■ スマート藤沢 (その理由) 藤沢駅周辺地区については、将来にわたって、藤沢の中心市街地であるため、公共施設再整備を先行することで、にぎわい創出に向けたエリアマネジメントの取組や周辺民間事業の機能更新に向けた投資を促進していく。また、誰もが移動しやすく、訪れ活動できる空間整備を進めるとともに、AI利用など先端技術の活用を図っていく。		都市基盤の充実と長寿命化対策の推進	
2030年又は事業終了時の望ましい姿		その他の計画との関連	
南北自由通路が拡幅し、JR・小田急・江ノ電の乗り換えがスムーズに行われるとともに、南口広場の歩行空間・滞留空間が広がり、北口・自由通路・南口と連続した人を中心とした空間、南北連携に向けた公共空間が整備されている。 エリアマネジメントの活性化や周辺民間施設の建て替え更新が進むことで、新たなにぎわいや交流が生まれ、市民や来街者、事業者等の活気あふれる活動が駅を中心に藤沢駅周辺に広がっていく。		本事業は「藤沢市都市マスタープラン」及び「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に基づく事業計画案に位置付けられている。	
貢献する主なSDGsのゴール			
11	住み続けられるまちづくりを		
17	パートナーシップで目標を達成しよう		
指針体系コード			
4-1-71			

関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」				
市民意識調査における質問項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
駅をはじめとする拠点の整備について	2.98 点	2.98 点	3.03 点	3.09 点
	点	点	点	点

令和3年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	委託料	56,270 千円	業務支援、計画検討、指定管理料等
	工事請負費	634,222 千円	藤沢駅東西地下通路再整備工事
	負担金補助及び交付金	15 千円	研修参加負担金
	需用費	1,894 千円	消耗品費、施設修繕費、印刷製本費
692,453 千円	旅費	52 千円	普通旅費
【参考】 令和4年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	委託料	74,151 千円	業務支援、計画検討、指定管理料等
	負担金補助及び交付金	234,604 千円	研修参加負担金、藤沢駅自由通路拡幅整備詳細設計
	報償費	300 千円	学識経験者謝礼
	需用費	2,515 千円	消耗品費、施設修繕費、印刷製本費
312,531 千円	その他	961 千円	旅費、役務費

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	9.00 人工	9.00 人工	9.00 人工	9.00 人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00 人工	0.00 人工	0.00 人工	0.00 人工
非常勤職員	0.00 人工	0.00 人工		
合計	9.00 人工	9.00 人工	9.00 人工	9.00 人工

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

会計年度任用職員(配置数)			1.00 人	0.00 人
---------------	--	--	--------	--------

3. 事業実施内容・成果

令和3年度 事業実施 内容	藤沢駅北口東西地下通路リニューアル事業(令和2年度からの2箇年継続工事)が完了した。 藤沢駅南北自由通路拡幅整備や駅改良に向けて鉄道事業者と協議調整を行い、段階施工の覚書を締結するとともに、第1期施工の詳細設計に着手した。(令和4年度完了予定) 藤沢駅前広場条例に北口地下広場を追加するとともに、「一般社団法人藤沢駅周辺地区エリアマネジメント」を北口地下広場の指定管理者として決定した。また、北口デッキを中心にエリアマネジメントの取組を進めた。 駅周辺の民間施設の機能更新の促進に向け、「藤沢駅前街区まちづくりガイドライン」の作成を進めた。 その他「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に基づく事業計画案に示された個別プロジェクトの推進に向けて、検討・調整を行った。						
	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
成果目標	来街者数	万人/日	35	35	35	35	
	駅をはじめとする拠点の整備についての満足度(5段階)	点	3	3	3	3	
参考							
活動実績	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
	委員会等の開催	回	15	5	12	12	エリアマネジメント組織との連絡会議の実施回数
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	来街者数	万人/日	31	31	31	31	
	駅をはじめとする拠点の整備についての満足度(5段階)	点	2.98	2.98	3.03	3.09	
数値で表せない効果							
藤沢駅東西地下通路再整備工事の完了により、歩行空間の快適性が向上した。							

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
コスト	行政費用(フルコスト) A	476,956	813,676	575,756	779,041					
	(1)現金を伴う支出 (千円)	477,926	813,598	575,790	779,032					
	事業費(支出済額)	391,200	726,130	487,103	692,453					
	償還金利子	0	0	0	0					
	人件費合計(①+②+③)	86,726	87,468	88,687	86,579					
	①常時勤務職員等の給与等	82,503	82,269	82,422	82,818					
	②会計年度任用職員の報酬等	0	0	1,395	0					
	③退職金相当額	4,223	5,199	4,870	3,761					
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-970	78	-34	9					
	①減価償却費	0	0	0	0					
	②退職給与引当金繰入額	-970	78	-34	9					
	③不納欠損額	0	0	0	0					
	④その他()	0	0	0	0					
	行政収益(事業収入) B	234,976	541,857	260,160	590,402					
(3)現金を伴う収入 (千円)	234,976	541,857	260,160	590,402						
①分担金及び負担金 c	0	11,027	18,210	33,289						
②使用料及び手数料 d	0	0	0	0						
③国庫支出金	0	47,430	118,140	0						
④県支出金	6,676	0	2,010	6,713						
⑤その他(市債(藤沢駅周辺地区再整備事業債))	228,300	483,400	121,800	550,400						
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0						
収入未済増減額	0	0	0	0						
収支差額(純費用)A-B E	241,980	271,819	315,596	188,639						
分析指標	項目	来街者数	単位	31	単位	31	単位	31	単位	
		F	万人/日		万人/日		万人/日		万人/日	
	1単位あたりの総費用 A/F (円)			15,385,677.42		26,247,612.90		18,572,774.19		25,130,344.02
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)		563.64	429,317	627.67	433,060	725.31	435,121	429.73	438,968
受益者負担率 (C+D)/A (%)		0.00		0.01		0.03		0.04		

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍におけるエリアマネジメントによるにぎわい創出 ・藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業に伴う基本設計の結果を踏まえた市の負担のあり方 ・南口駅前広場の再整備基本計画(素案)のパブリックコメント等を踏まえた見直し
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者によるにぎわい創出イベントの検討・実施 ・藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業に伴う基本設計の設計検証の結果を詳細設計に反映するとともに、鉄道事業者との協議により、事業費の縮減・工期短縮に取り組む ・南口駅前広場の再整備基本計画(素案)のパブリックコメント等の結果を踏まえた見直し作業
(3) 令和3年度末時点の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍におけるエリアマネジメントによるにぎわい創出 ・藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業に伴う段階施工を踏まえた市の負担のあり方 ・駅周辺民間施設の機能更新を促進するための施策検討
(4) (3)解決のための今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者によるにぎわい創出イベントの検討・実施 ・藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業に伴う詳細設計の設計検証を行うとともに、鉄道事業者との協議により、事業費の縮減・工期短縮に取り組む ・まちづくりガイドラインによる駅前街区の方向性の位置づけ及び届出支援制度の構築

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	<input type="radio"/> ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	<input type="radio"/> ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの <input type="radio"/> エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	<input type="radio"/> ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの <input type="radio"/> ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和3年度支出済額	<input type="radio"/> ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	<input type="radio"/> ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 <input type="radio"/> エ=10～30%未満 オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	<input type="radio"/> ア=10%未満 <input type="radio"/> イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
3. 施設等整備	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	<p>藤沢駅周辺は、藤沢市が昭和40年代から昭和50年代にかけて実施した都市基盤の整備に伴い、民間の商業施設の多くが同時期に建設され、老朽化による機能更新の時期を迎えている。コロナ禍以前の状況では、鉄道乗降客数は増加しているが、駅周辺の年間商品販売額の減少傾向が続いており、まちの再活性化・にぎわいの創出が求められている。今後、鉄道事業者による駅施設の改良や藤沢市による駅前広場の再編を推進することによって、老朽化した民間施設の建て替えを誘導する等、まちの再活性化等の課題解決に向けた官民連携によるまちづくりが必要となる。</p>	
他市等の事例	<p>柏市 平成21年度 柏駅東口歩行者専用嵩上式広場改良事業→平成23年度 事業完了 川崎市 平成24年度 JR川崎駅北口自由通路等整備事業→平成30年度 事業完了</p>	
市民ニーズ	把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢駅南口駅前広場及び地下通路に関する市民及び利用者へのアンケート調査(2017年11月26日・30日実施 3,053件) ・南口駅前広場基本計画(素案)パブリックコメント(2021年2月17日～3月18日 意見数67件) ・まちづくりニュースの発行や広報等による積極的な情報発信による市民等からの意見聴取 ・都市再生整備計画(藤沢駅周辺地区)における事後評価(アンケート実態調査(北口デッキ等)2020年10月実施)
	把握内容	<ul style="list-style-type: none"> ・(アンケート)藤沢駅南口駅前広場について、昇降施設及びベンチ等の休憩施設を整備してほしい。地下通路について、通路としての機能だけではなく、滞在するような機能(待ち合わせやイベント等のスペース)があると良い。 ・(パブリックコメント)一般車の東西方向の通過利用や明るい広場空間の整備、より進んだバリアフリー対応をしてほしい。 ・(事後評価アンケート)滞留関連施設利用者数(昼391人/時間、夕310人/時間→昼761人/時間、夕616人/時間)、滞留空間の魅力度(12.4%→57.4%)、歩行者空間の快適度(26.3%→68.1%)
	対応等	<ul style="list-style-type: none"> ・地下通路リニューアル事業及び藤沢駅周辺地区のエリアマネジメント等の参考とした。 ・南北自由通路拡幅整備や南口駅前広場整備など、今後はさらなる魅力度及び快適度の向上に向け、取り組んでいく。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	<p>令和3年度は、「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に基づく事業計画案に示された東西地下通路リニューアル事業が完了するとともに、南北自由通路拡幅及び駅改良の段階施工に向けた協議及び詳細設計に着手した。また、周辺民間施設の機能更新等に向けたまちづくりガイドラインの検討や、北口デッキ等において、コロナ禍でのイベント実施など、エリアマネジメントの取組の推進が図られ、駅周辺のにぎわい創出、再活性化に寄与したものと評価する。</p>	
今後の方針	まちづくりテーマ	④ 都市の機能と活力を高める
	事業の方向性	現状維持
	<p>活力とにぎわいのあるまちづくりを目指し、市の都心部にふさわしい都市空間の形成をめざし、今後については、藤沢駅南北自由通路の拡幅及び駅改良に向け、鉄道事業者との継続的な協議と詳細設計の推進を図るとともに、南口駅前広場の再整備に向けた検討を進める。 また、駅周辺の民間施設の機能更新に向けた支援やエリアマネジメントの取組を推進し、まちの再活性化につながるよう取り組んでいく。</p>	

9. 部長確認欄

部名	都市整備部	氏名	川崎 隆之	確認日	2022/9/2
----	-------	----	-------	-----	----------

事務事業名	藤沢駅周辺地区再整備事業費(繰越分)										担当	部課名	都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当			
予算科目コード	会計	01	款	09	項	04	目	01	細目	007	説明	01	課等の長	飯田 健一	電話	4332

1. 事業概要

事業開始年度	令和 2 年度	終了(予定)年度	令和 3 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	藤沢駅北口排気塔補修工事として、外装補修工事や表面デザイン工事を実施する。						
事業目的及び必要性	しゅん工から40年以上が経過し、外装材の色褪せや下地モルタルの浮きが散見され、剥落の危険性があることから、外装の補修等を行う。						
対象	1. 個人	市民				438,968 人	
根拠法令等							

藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)

まちづくりコンセプト		重点施策名	
<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢 (その理由) 藤沢の中心市街地の魅力を高めることで、都市の価値を高めていく取組となる。		都市基盤の充実と長寿命化対策の推進	
		指針体系コード	
		4-1-71	
2030年又は事業終了時の望ましい姿		その他の計画との関連	
新たな藤沢駅北口のシンボルとして、藤沢駅周辺の魅力向上が図られている。		本事業は「藤沢市都市マスタープラン」及び「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に基づく事業計画案に位置付けられている。	
		貢献する主なSDGsのゴール	
		11 住み続けられるまちづくりを	

関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」

市民意識調査における質問項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
駅をはじめとする拠点の整備について	2.98 点	2.98 点	3.03 点	3.09 点
	点	点	点	点

令和3年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	工事請負費	38,280 千円	藤沢駅北口排気塔補修工事
	38,280 千円		
【参考】 令和4年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	0 千円		

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	9.00 人工	9.00 人工	9.00 人工	0.50 人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00 人工	0.00 人工	0.00 人工	0.00 人工
非常勤職員	0.00 人工	0.00 人工		
合計	9.00 人工	9.00 人工	9.00 人工	0.50 人工

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

会計年度任用職員(配置数)			1.00 人	0.00 人
---------------	--	--	--------	--------

3. 事業実施内容・成果

令和3年度 事業実施 内容	藤沢駅北口排気塔補修工事として、外装補修工事や表面デザイン工事を実施した。						
	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
成果目標	事業進捗率	%	-	-	0	100	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
	事業進捗率	%	-	-	0	100	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	事業進捗率	%	-	-	0	100	
数値で表せない効果							
東京2020やスポーツ都市宣言の制定の記念となるようなイメージでリニューアルを行い、駅前空間が明るくなった。							

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
コスト	行政費用(フルコスト) A	0	0	0	17,446			
	(1)現金を伴う支出 (千円)	0	0	0	43,090			
	事業費(支出済額)				38,280			
	償還金利息				0			
	人件費合計(①+②+③)	0	0	0	4,810			
	①常時勤務職員等の給与等				4,601			
	②会計年度任用職員の報酬等				0			
	③退職金相当額				209			
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	0	0	0	-25,644			
	①減価償却費				0			
	②退職給与引当金繰入額				-25,644			
	③不納欠損額				0			
	④その他()				0			
	行政収益(事業収入) B	0	0	0	28,700			
(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	0	28,700				
①分担金及び負担金 c				0				
②使用料及び手数料 d				0				
③国庫支出金				0				
④県支出金				0				
⑤その他(市債(藤沢駅周辺地区再整備事業債))				28,700				
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0				
収入未済増減額				0				
収支差額(純費用) A-B E	0	0	0	-11,254				
分析指標	項目	単位	単位	単位	単位			
	事業進捗率 F	-	-	-	100 %			
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	-	-	-	174,455.49			
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	0.00	429,317	0.00	433,060	0.00	435,121	-25.64
受益者負担率 (C+D)/A (%)	-	-	-	-	0.00			

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	特になし
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	特になし
(3) 令和3年度末時点の課題	特になし
(4) (3)解決のための今後の取組	特になし

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	
	○	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ~オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)
	○	②事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況) ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの
	○	③ 事業期間 ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2~4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの
	○	④ 事業費…令和3年度支出済額 ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上~300,000千円未満 ウ=30,000千円以上~100,000千円未満 エ=5,000千円以上~30,000千円未満 オ=5,000千円未満
	○	⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合 ア=80%以上 イ=50~80%未満 ウ=30~50%未満 エ=10~30%未満 オ=10%未満
	○	⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合 ア=10%未満 イ=10~30%未満 ウ=30~50%未満 エ=50~80%未満 オ=80%以上

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
3. 施設等整備	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	藤沢駅周辺は、藤沢市が昭和40年代から昭和50年代にかけて実施した都市基盤の整備に伴い、民間の商業施設の多くが同時期に建設され、老朽化による機能更新の時期を迎えている。コロナ禍以前の状況では、鉄道乗降客数は増加しているが、駅周辺の年間商品販売額の減少傾向が続いており、まちの再活性化・にぎわいの創出が求められている。今後、鉄道事業者による駅施設の改良や藤沢市による駅前広場の再編を推進することによって、老朽化した民間施設の建て替えを誘導する等、まちの再活性化等の課題解決に向けた官民連携によるまちづくりが必要となる。	
他市等の事例	特になし	
市民ニーズ	把握方法	都市再生整備計画(藤沢駅周辺地区)における事後評価(アンケート実態調査(北口デッキ等)2020年10月実施)
	把握内容	(事後評価アンケート)滞留関連施設利用者数(昼391人/時間、夕310人/時間→昼761人/時間、夕616人/時間)、滞留空間の魅力度(12.4%→57.4%)、歩行者空間の快適度(26.3%→68.1%)
	対応等	藤沢駅北口排気塔補修工事及び今後の公共事業の参考とした。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	藤沢駅北口排気塔補修工事が無事に完了したものと評価する。	
今後の方針	まちづくりテーマ	④ 都市の機能と活力を高める
	事業の方向性	休止・廃止・完了
	藤沢駅北口排気塔補修工事としては、完了した。今後、補修の完了した排気塔については、北口駅前のシンボルの一つとなっていくものと考えている。	

9. 部長確認欄

部名	都市整備部	氏名	川崎 隆之	確認日	2022/9/2
----	-------	----	-------	-----	----------

藤沢市 令和4年度事務事業評価シート(令和3年度分)

No. 3

事務事業名	藤沢駅周辺地区再整備事業費(継続費)										担当	部課名	都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当			
予算科目コード	会計	01	款	09	項	04	目	01	細目	007	説明	01	課等の長	飯田 健一	電話	4332

1. 事業概要

事業開始年度	令和 2 年度	終了(予定)年度	令和 3 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	藤沢駅北口の地下通路(東西方向)について、既存の躯体構造を活かしつつ、リニューアルを実施する。(工事期間2020年~2021年)						
事業目的及び必要性	地下通路のバリアフリーやユニバーサルデザインへの配慮を行うとともに、駅周辺の再活性化に向けた、にぎわいや交流、憩いを育める空間の創出を図る。						
対象	1. 個人	市民				439,968 人	
根拠法令等							
藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)							
まちづくりコンセプト				重点施策名			
<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input checked="" type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢 (その理由) 明るく誰もが利用しやすい空間整備を進めるとともに、エリアマネジメントの取組を視野に入れた滞留空間の創出を図る。				都市基盤の充実と長寿命化対策の推進			
				指針体系コード			
				4-1-71			
2030年又は事業終了時の望ましい姿				その他の計画との関連			
藤沢駅周辺の回遊性を高め、滞留空間では、にぎわいや交流をイベントの実施や情報発信等が行われ、藤沢駅周辺の再活性化に寄与している。				本事業は「藤沢市都市マスタープラン」及び「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に基づく事業計画案に位置付けられている。			
				貢献する主なSDGsのゴール			
				11 住み続けられるまちづくりを			
				17 パートナーシップで目標を達成しよう			
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
駅をはじめとする拠点の整備について		2.98 点	2.98 点	3.03 点	3.09 点		
		点	点	点	点		

令和3年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費 目	支出済額 (千円)	主な事業内容
	工事請負費	282,612 千円	藤沢駅東西地下通路再整備工事
282,612 千円			
【参考】 令和4年度 予算額	事業費節別内訳		
	費 目	予算額 (千円)	主な事業内容
0 千円			

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	1.00人工	1.00人工	1.00人工	0.50人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00人工	0.00人工	0.00人工	0.00人工
非常勤職員	0.00人工	0.00人工		
合計	1.00人工	1.00人工	1.00人工	0.50人工

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

会計年度任用職員(配置数)			0.00人	0.00人
---------------	--	--	-------	-------

3. 事業実施内容・成果

令和3年度 事業実施 内容	藤沢駅北口東西地下通路リニューアル事業(令和2年度からの2箇年継続工事)を実施するとともに、整備された北口地下広場を藤沢市広場条例に位置づけ、指定管理によるエリアマネジメントの取組が行える環境を整えた。						
	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
成果目標	事業進捗率	%	-	-	17	100	
	参考 全体工事費1,105,242千円 R2:188,408千円 R3:282,612千円(継続費)+634,222千円						
活動実績	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
	事業進捗率	%	-	-	17	100	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	事業進捗率	%	-	-	17	100	
数値で表せない効果 地下通路リニューアル事業の完了により、歩行空間の快適性が向上した。							

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
コスト	行政費用(フルコスト) A	456,714	701,356	259,408	285,914				
	(1)現金を伴う支出 (千円)	453,702	701,347	259,412	287,422				
	事業費(支出済額)	444,066	691,628	249,713	282,612				
	償還金利息	0	0	0	0				
	人件費合計(①+②+③)	9,636	9,719	9,699	4,810				
	①常時勤務職員等の給与等	9,167	9,141	9,158	4,601				
	②会計年度任用職員の報酬等	0	0	0	0				
	③退職金相当額	469	578	541	209				
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	3,012	9	-4	-1,508				
	①減価償却費	0	0	0	0				
	②退職給与引当金繰入額	3,012	9	-4	-1,508				
	③不納欠損額	0	0	0	0				
	④その他()	0	0	0	0				
	行政収益(事業収入) B	386,200	636,700	169,570	263,360				
(3)現金を伴う収入 (千円)	386,200	636,700	169,570	263,360					
①分担金及び負担金 c	0	0	0	0					
②使用料及び手数料 d	0	0	0	0					
③国庫支出金	112,100	303,200	22,070	128,460					
④県支出金	0	0	0	0					
⑤その他(市債(藤沢駅周辺地区再整備事業債))	274,100	333,500	147,500	134,900					
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0					
収入未済増減額	0	0	0	0					
収支差額(純費用)A-B E	70,514	64,656	89,838	22,554					
分析指標	項目	単位	単位	単位	単位				
	F								
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	-	-	-	-				
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	164.25	429,317	149.30	433,060	206.47	435,121	51.38	438,968
	受益者負担率 (C+D)/A (%)	0.00	0.00	0.00	0.00				

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	特になし
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	特になし
(3) 令和3年度末時点の課題	特になし
(4) (3)解決のための今後の取組	特になし

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	
	○ ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ~オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	
	○ ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	
	○ ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2~4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和3年度支出済額
		○ ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上~300,000千円未満 ウ=30,000千円以上~100,000千円未満 エ=5,000千円以上~30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合
		○ ア=80%以上 イ=50~80%未満 ウ=30~50%未満 エ=10~30%未満 オ=10%未満
⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合		
○ ア=10%未満 イ=10~30%未満 ウ=30~50%未満 エ=50~80%未満 オ=80%以上		

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
3. 施設等整備	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	<p>藤沢駅周辺は、藤沢市が昭和40年代から昭和50年代にかけて実施した都市基盤の整備に伴い、民間の商業施設の多くが同時期に建設され、老朽化による機能更新の時期を迎えている。コロナ禍以前の状況では、鉄道乗降客数は増加しているが、駅周辺の年間商品販売額の減少傾向が続いており、まちの再活性化・にぎわいの創出が求められている。今後、鉄道事業者による駅施設の改良や藤沢市による駅前広場の再編を推進することによって、老朽化した民間施設の建て替えを誘導する等、まちの再活性化等の課題解決に向けた官民連携によるまちづくりが必要となる。</p>	
他市等の事例	特になし	
市民ニーズ	把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢駅南口駅前広場及び地下通路に関する市民及び利用者へのアンケート調査(2017年11月26日・30日実施 3,053件) ・都市再生整備計画(藤沢駅周辺地区)における事後評価(アンケート実態調査(北口デッキ等)2020年10月実施)
	把握内容	<ul style="list-style-type: none"> ・(アンケート)地下通路について、通路としての機能だけではなく、滞在するような機能(待ち合わせやイベント等のスペース)があると良い。 ・(事後評価アンケート)滞留関連施設利用者数(昼391人/時間、夕310人/時間→昼761人/時間、夕616人/時間)、滞留空間の魅力度(12.4%→57.4%)、歩行者空間の快適度(26.3%→68.1%)
	対応等	地下通路リニューアル事業及び今後の公共事業の参考とした。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に基づく事業計画案に示された、地下通路リニューアル事業が無事に完了したものと評価する。	
今後の方針	まちづくりテーマ	④ 都市の機能と活力を高める
	事業の方向性	休止・廃止・完了
	地下通路リニューアル事業としては、完了した。今後、リニューアルした地下通路については、指定管理者によるエリアマネジメントの取組の活動の場としても利用され、藤沢駅周辺のにぎわい創出に寄与していくものと考えている。	

9. 部長確認欄

部名	都市整備部	氏名	川崎 隆之	確認日	2022/9/2
----	-------	----	-------	-----	----------